

「エネルギーセキュリティシナリオ 2023」 (承前)

角 和 昌 浩 (かくわ まさひろ)

木 原 正 樹 (きはら ま さ き) 株式会社フューチャーネス 代表 兼 シナリオプランナー

要約 2023年3月21日に公表されたシェルの最新グローバルシナリオ「エネルギーセキュリティシナリオ 2023 (以下、「ESS2023」と表記)」のご紹介。前回連載の続きです。

ArchipelagosとSky2050という2つのシナリオが描かれます。

Archipelagosは、ナショナリズムと国際関係のブロック化の未来。エネルギーセキュリティへの関心が昂進して、気候変動問題への関心が緩みます。各国は“次の”エネルギー危機に備えて、自国のエネルギーシステムの強靭性を高めるために、自国内の低炭素エネルギーの開発・利用技術を強化。これにより2020年代に温暖化ガス排出の増加が抑えられ、2030年代中頃以降減少に転じます。

Sky2050では、脱炭素化の潮流が一時的に緩むものの、やがて再び勢いを増してゆきます。各国市民はネットゼロ社会を求めつづけ、政府は低炭素化政策を打ち出し、企業は低炭素化をビジネスチャンスと見なします。2030年代、一時的に1.5℃を越えるオーバーシュートが見られますが、2075年には1.5℃を回復し、世紀末には1.2℃に低下します。

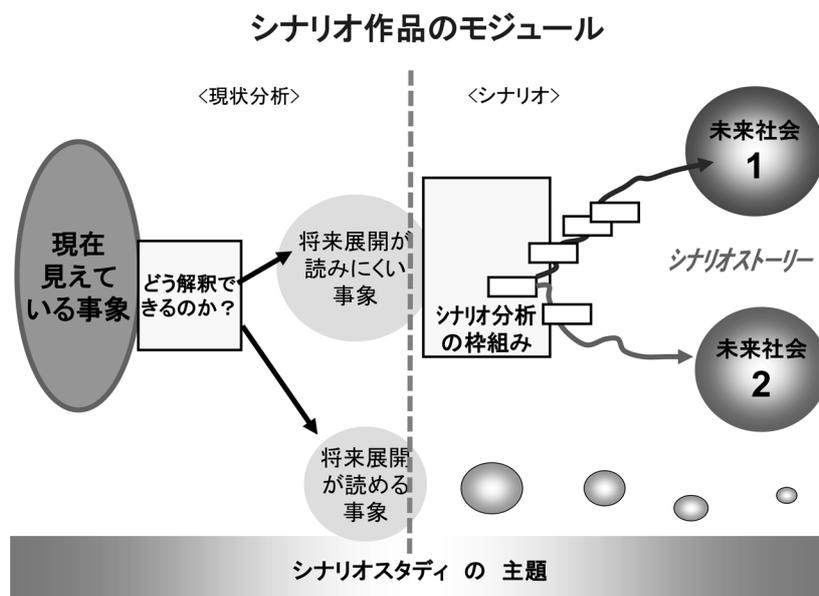
1. 前回までの概要

復習をします。

ESS2023を語るために、シナリオ手法の一般理論を援用しましょう。下図は、シナリオ作品の標準構成を表わしたものです。シナリオ作品はこの構成要素を順番

に作ってゆけば、自然に出来上がってしまう。

構成要素とはすなわち、①シナリオスタディの主題(クエスチョン)の設定、②現状分析、③将来展開が読みにくい事象、④シナリオ分析枠組みの発見、そして、⑤シナリオストーリーの執筆です。



出所：筆者